

2021年11月25日

各 位

会社名 バルテス株式会社
代表者名 代表取締役社長 田中 真史
(コード番号：4442 東証マザーズ)
問合せ先 取締役 西村 祐一
(TEL. 06-6534-6561)

<マザーズ>投資に関する説明会開催状況について

以下のとおり、投資に関する説明会を開催いたしましたので、お知らせいたします。

記

○開催状況

開催日時 2021年11月24日(水) 15:30~16:30

開催方法 オンライン配信による開催

説明会資料名 2022年3月期【第2四半期】決算説明会

○添付資料

投資説明会において使用した資料

以上

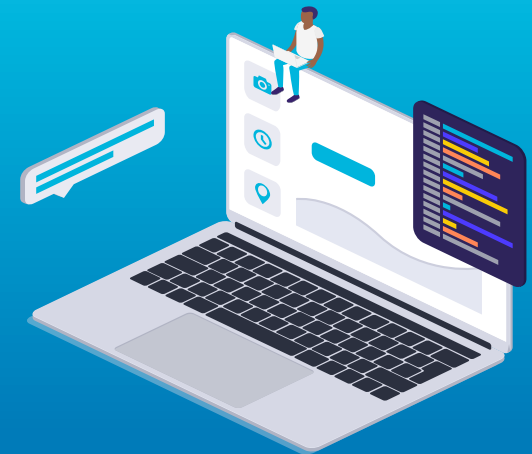
2022年3月期【第2四半期】 決算説明会

2021年11月24日



第2四半期決算概況と 今期見通し

取締役 西村 祐一



2Q時点で過去最高となる売上高**30億円**を突破！

売上高

30.0億円

前年同期比 +24.5%

営業利益

0.4億円

▲65.3%

親会社株主に帰属する
四半期純利益

0.3億円

▲57.4%

稼働エンジニア数

865名

前年同期比 +177名

案件数

1,554件

+363件

単価

666千円

+2千円

2Q以降のトピックス

- ・ エンジニア数は**850名**を突破
- ・ 案件数、単価ともに2Q時点で過去最高
- ・ 将来を見据え、テスト自動化ツール「**T-DASH**」OPEN β版をローンチ
- ・ **自己株式の取得**を決定
- ・ **SDGs**推進融資を実施

		FY2021 2Q	FY2022 2Q	
		前期実績	実績	前期比
ソフトウェアテスト サービス事業	売上高	2,238	2,698	+20.5%
	営業利益	155	98	▲36.7%
	利益率	7.0%	3.7%	▲3.3pt
	エンジニア1人当たりの売上高(千円)	664千円	666千円	+2千円
Web/モバイルアプリ開発 サービス事業	売上高	205	363	+76.7%
	営業利益	23	▲24	-
	利益率	11.2%	-	-
オフショアサービス事業	売上高	14	43	+198.4%
	営業利益	▲4	9	-
	利益率	-	21.3%	-
セグメント間取引消去 および全社費用	売上高	▲45	▲100	-
	営業利益	▲38	▲36	-
連結	売上高	2,413	3,005	+24.5%
	営業利益	136	47	▲65.3%
	利益率	5.6%	1.6%	▲4.0pt

※エンジニア1人当たりの売上高(月間) = ソフトウェアテストセグメントの売上高 ÷ エンジニア数の延べ人数(正社員+契約社員+ビジネスパートナー)

ソフトウェアテストサービス事業

- 各社の大型案件に対し、**上流工程やPMO**からさらなる参画を狙い、下期、来期への売上拡大へ
- **金融系・公共系・大型ECサイト企業**など、ターゲット企業からの拡大を見込む
- **ソフトウェアテスト自動化ツール**の稼働で、エンジニア不足を解消へ、今後は付加価値向上により収益化に
- **当社のテスト・品質向上手法を身に付けた社員**で安定したプロジェクト品質を維持し、**ビジネスパートナー活用**により、案件ボリューム拡大へ

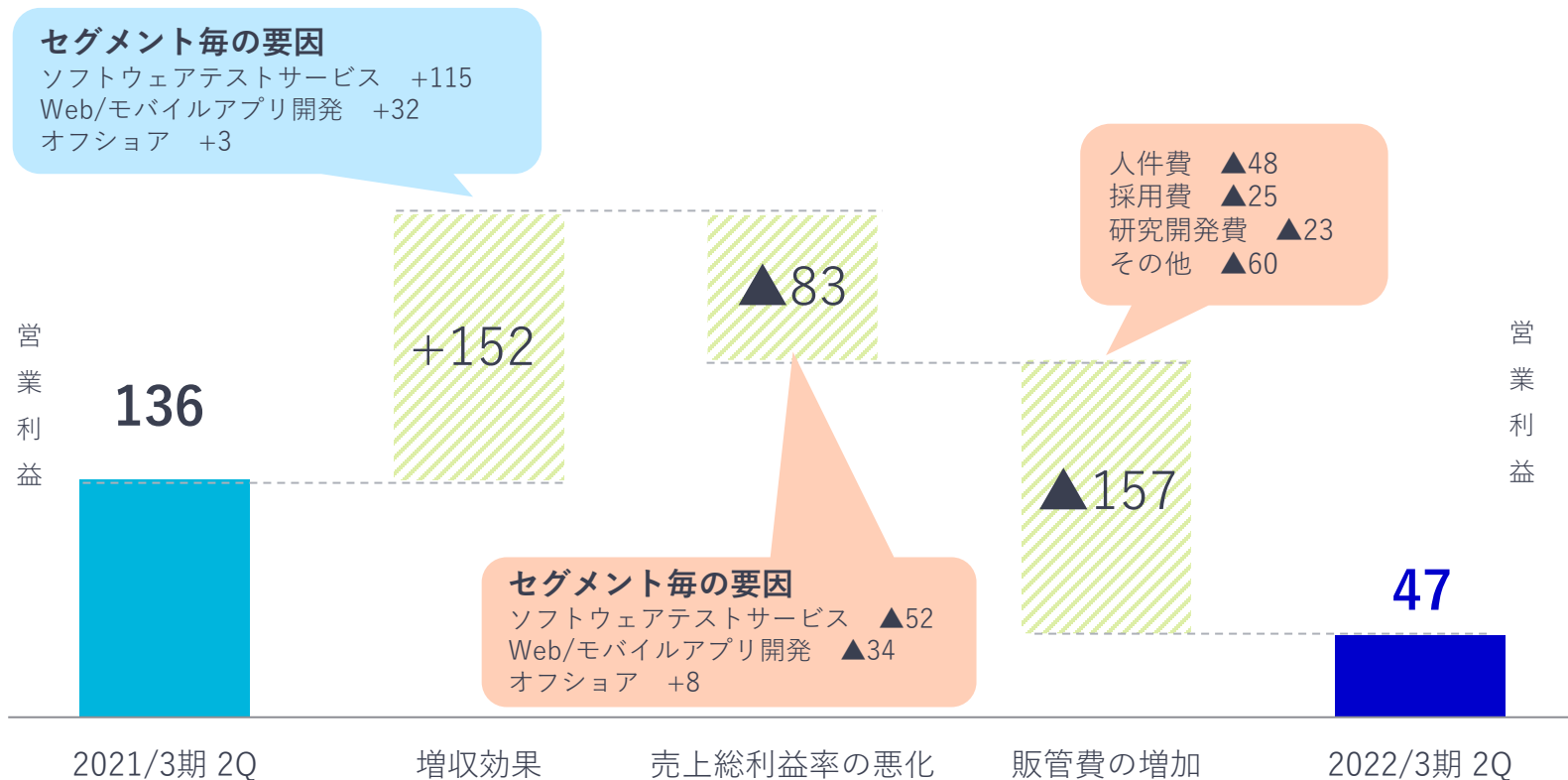
Web/モバイルアプリ開発サービス事業

- **脆弱性診断を中心としたセキュリティ需要を取り込み売上拡大へ**
- **管理体制を強化し、不採算案件の再発を防止へ**
- **VR・AR技術を積極展開、高単価、競合少の市場で下期挽回へ**

オフショアサービス事業

- **日本企業との取引拡大により各四半期で安定した売上へ**
- **ロックダウン状況下でもテレワークにより安定稼働**
- **受注好調で、来期の案件増加を見越し、オフィスを増床へ**

(単位：百万円)



連結販管費内訳	FY2021 2Q	FY2022 2Q		
	(百万円)	(百万円)	前年同期比増減 (百万円)	前年同期比 (%)
販管費	483	640	+157	+32.6%
人件費	222	270	+48	+21.7%
採用費	78	103	+25	+32.3%
研究開発費	26	50	+23	+87.4%
その他	155	216	+60	+39.0%

人件費 +48 →営業および管理体制強化に伴う人数増加
 採用費 +25 →採用数増に伴う増加
 研究開発費 +23 →T-DASH（ソフトウェアテスト自動化ツール）等の新規サービス開発に対する先行投資
 その他 +60 →販促ツールや新基幹システムに係る償却費の増加、人数増加に伴うインフラ費用の増加、PR費用の増加 等

連結正社員入社人数 (エンジニア+販管部門)	FY2021 2Q	FY2022 2Q		
	(名)	(名)	前年同期比増減 (名)	前年同期比 (名)
総数 (うちエンジニア)	85 (76)	108 (91)	+23 (+15)	+27.1% (+19.7%)

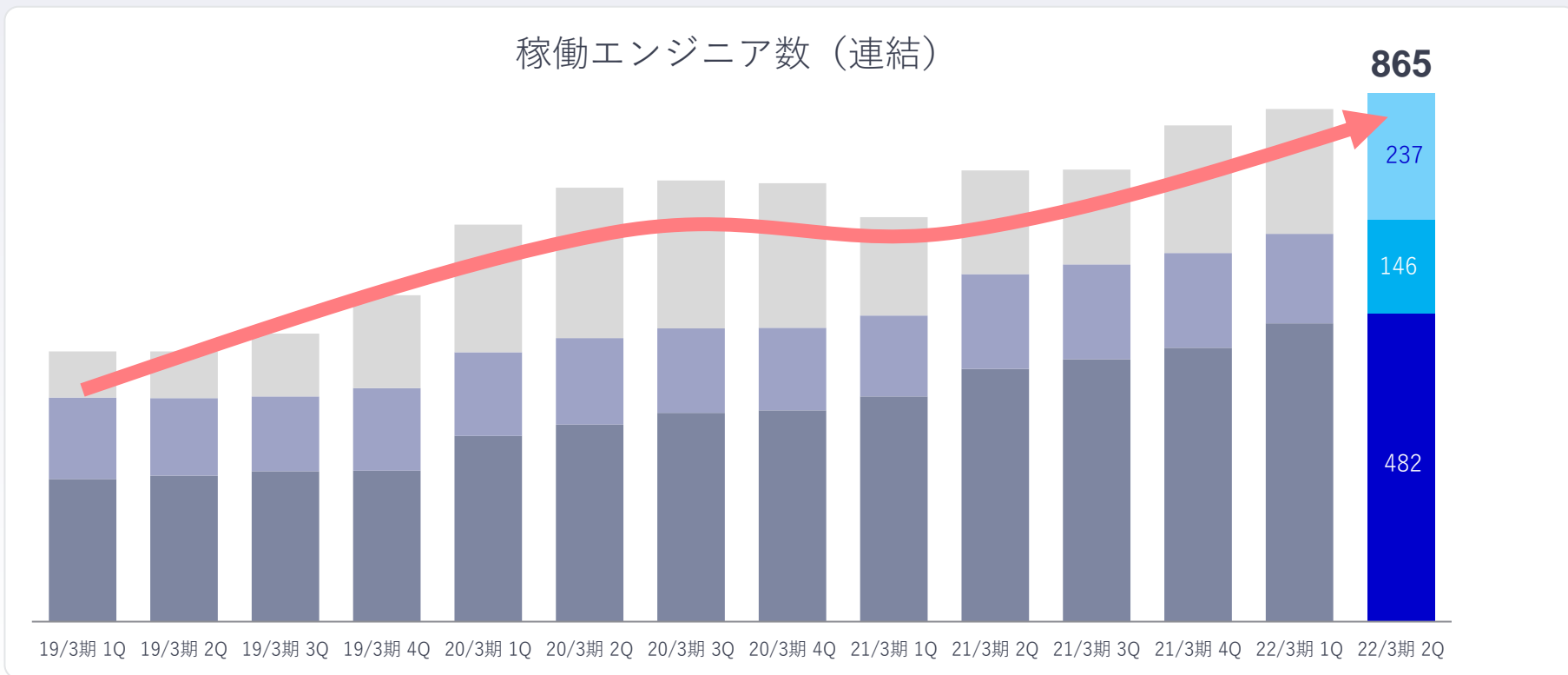
案件数、単価、稼働人員数がいずれも第2四半期で過去最高



22年3月期の業績達成に向け、基盤が整う

※1単価 (月間) = ソフトウェアテストセグメントの売上高 ÷ エンジニア数の延べ人数 (正社員+契約社員+ビジネスパートナー)
 ※2ソフトウェアやシステム、データなどを別の環境に移動したり、新しい環境に切り替えたりすること

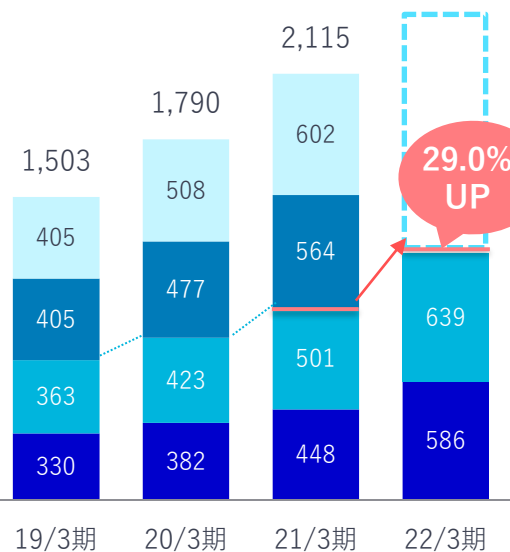
グループ全体のエンジニア数は**850名**を突破！



テストサービス事業を中心に、3セグメントとも前年同期比で増加

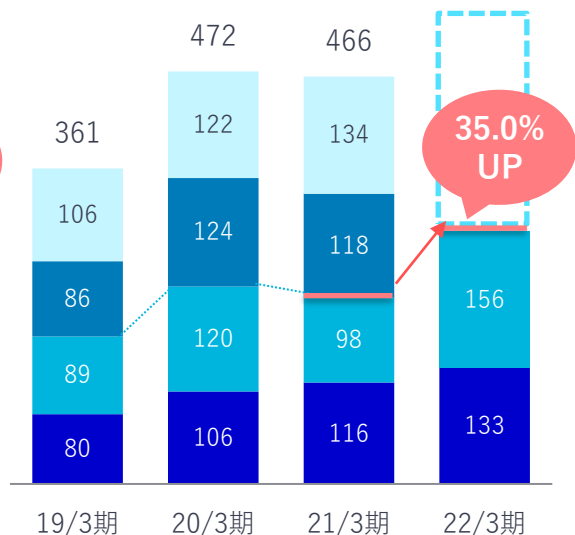
ソフトウェアテストサービス事業

(単位：件)



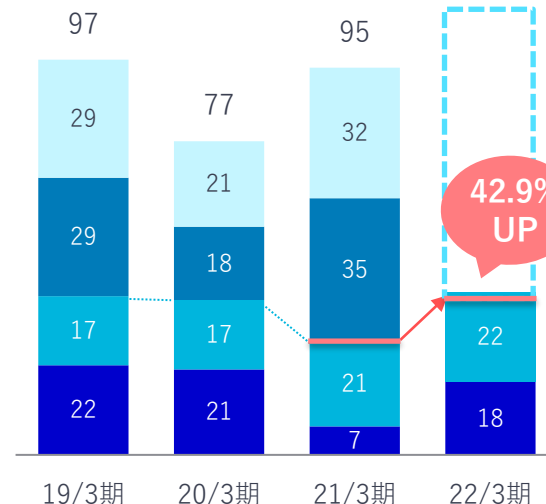
Web/モバイルアプリ開発サービス事業

(単位：件)



オフショアサービス事業

(単位：件)



■ 1Q ■ 2Q ■ 3Q ■ 4Q

業績見通し



成長戦略の更なる強化により、**売上、利益続伸へ**

(単位：百万円)

	FY2021	FY2022	増減額	増減率
売上高	5,262	6,451	+1,189	22.5%
営業利益	344	464	+120	34.8%
経常利益	347	468	+121	34.9%
親会社株主に帰属する 当期純利益	246	305	+59	23.7%
1株当たり 当期純利益 (円)	35.65	44.16		

■ 【傾向】

ソフトウェアテストサービスは、その提供対象となる顧客のサービス・製品などのリリースが下半期となることが多く、当社グループの売上高及び利益についても 下半期に偏重する傾向

※案件数、単価、稼働人員数が四半期を追うごとに増加

■ 【解消】

上半期の不採算案件は9月末で終了。 下半期の業績に与える影響は無し

※同様の事象が発生しないように管理面の強化を上半期に実施済

■ 【原価】

上半期に採用したエンジニアが下半期で 売上・利益に貢献

※案件へのアサインが完了し、今後経験を重ねることで単価UPへ

■ 【販管費】

上半期は積極的な投資、下半期は 販管費の抑制を実施

会社概要・成長戦略

代表取締役社長 田中 真史



「品質向上のトータルサポート企業」を経営方針に掲げ、事業を展開

会社名	バルテス株式会社
会社設立	2004年4月
上場	2019年5月（東証マザーズ 証券コード：4442）
本社住所	大阪市西区阿波座1-3-15（大阪本社）
事業内容	ソフトウェアテストサービス 品質コンサルティングサービス ソフトウェア品質教育サービス セキュリティ・脆弱性診断サービス
子会社	バルテス・モバイルテクノロジー株式会社 株式会社アール・エス・アール VALTES Advanced Technology, Inc. (Philippines)
従業員数	716名（2021年9月末 グループ4社計）
内、総エンジニア数	628名（2021年9月末 グループ4社計）
総資産	2,529百万円（2021年9月末 グループ4社連結）

企業理念

私たちは品質にコミットし、安心・安全なICT社会の実現に貢献します。

私たちはICT社会に貢献する人材を育成します。

私たちは多くの価値を創り、お客様と共に喜びを分かち合います。

社名の由来

Value created through Testing



「テストを通じて価値を創造する会社」という意味が込められています。

グループスローガン

VALTES

FOR QUALITY CONFIDENCE

VALTES for Quality Confidenceに込めた想い

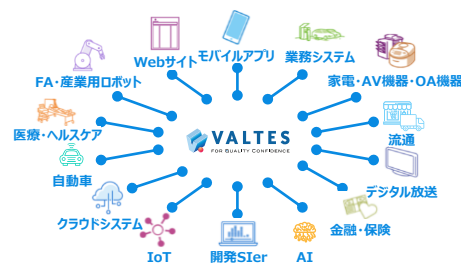
「お客様の品質に対する自信を揺るぎないものにしたい」
技術を磨き続け、品質向上に貢献し、より良い製品で社会を豊かにする。
バルテスグループは、ソフトウェア品質のさらなる高みを目指し続けます。

高スキル エンジニア

- ▶ エンジニア適正試験
- ▶ 独自の研修カリキュラムによる早期戦力化
- ▶ JSTQB*¹保有率 92%以上！ (入社2年目以降の正社員)
- ▶ ISTQB*² Global Partner
※全世界10社のみ、**日本初!**



日本で初のグローバルパートナー

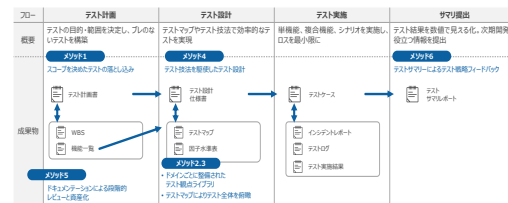


豊富な実績

- ▶ 年間2,100プロジェクト、600社以上の導入実績
- ▶ 業種毎の豊富なテスト観点

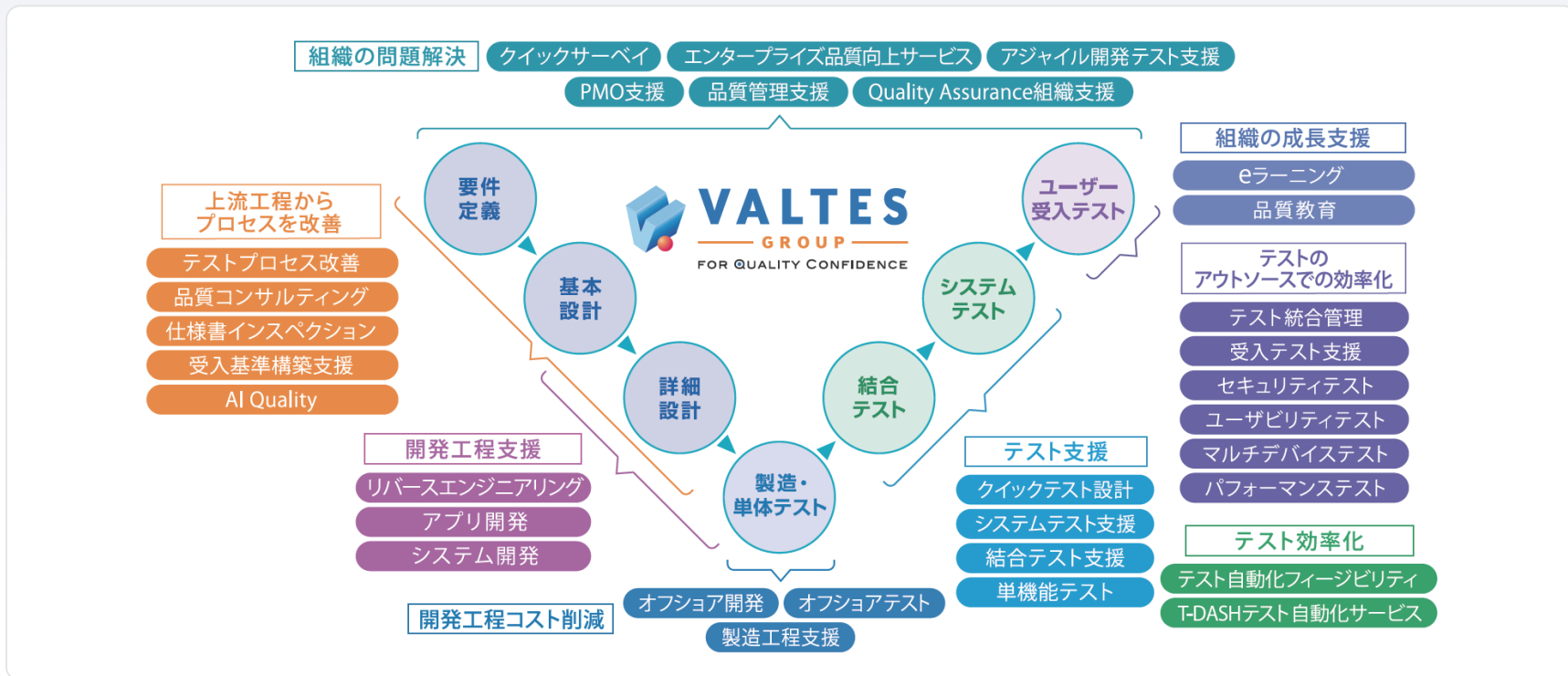
標準化・ プロセス

- ▶ IEEE*³829*⁴準拠テンプレート
- ▶ QUINTEE*⁵ (テストの進行基準)
- ▶ 標準化されたテスト設計手法による
抜け漏れ・誤認識を排除



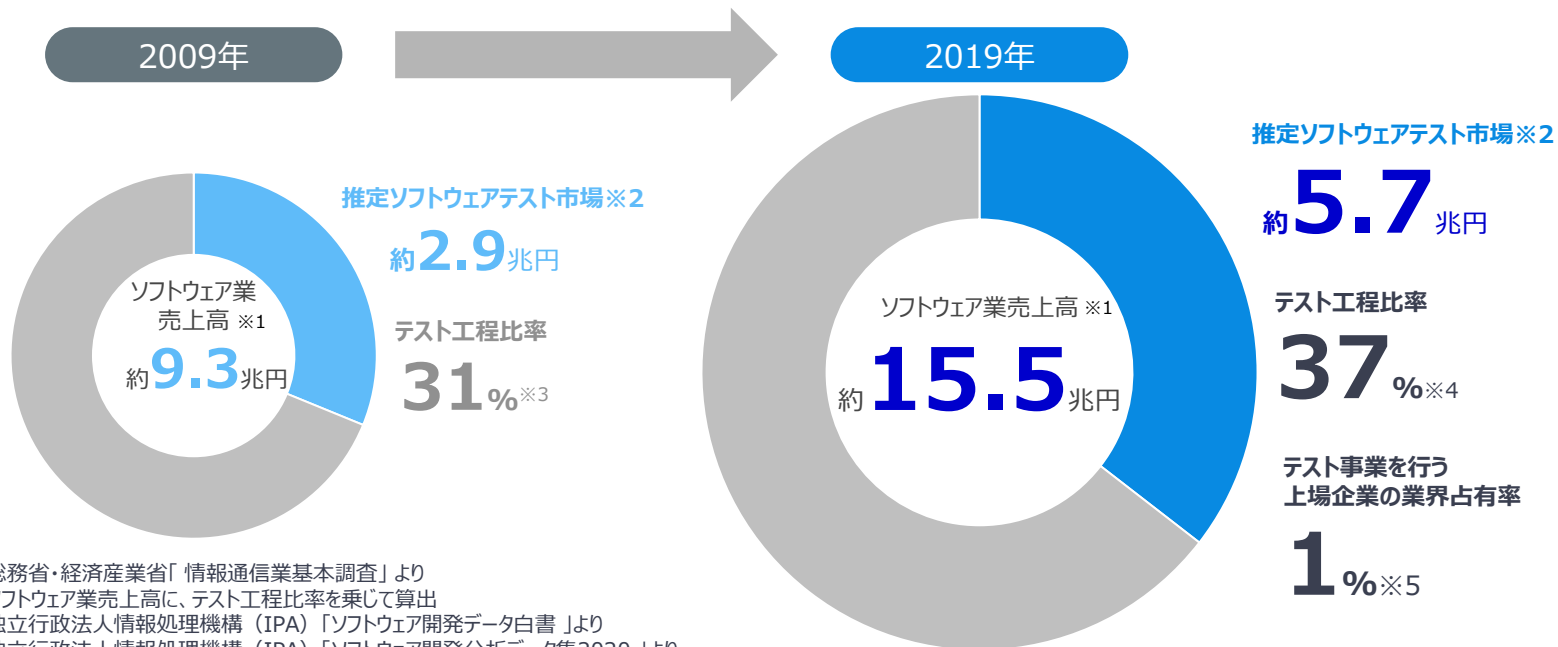
※1: JSTQB(Japan Software Testing Qualifications Board)とは、国内のソフトウェアテスト技術者認定組織のこと
 ※2: ISTQB(International Software Testing Qualifications Board)とは、世界130カ国のテスト技術者認定組織のこと
 ※3: IEEE (Institute of Electrical and Electronics Engineers) とは、米国に本部を置く、電気・情報工学分野の学術研究団体、学会、技術標準化機関のこと
 ※4: IEEE829とは、テスト工程で作成するドキュメントの定義のこと
 ※5: QUINTEEとは、当社がソフトウェアテストを主軸に、品質向上・生産性向上に関連する知見を体系化したもの

ソフトウェア開発の全工程で、ソフトウェア品質の向上支援サービスを提供



当社が推定する日本のソフトウェアテストの市場規模は約**5.7兆円**

ソフトウェア業売上高に占めるテスト工程比率の推移と市場規模推計



※1 総務省・経済産業省「情報通信業基本調査」より
 ※2 ソフトウェア業売上高に、テスト工程比率を乗じて算出
 ※3 独立行政法人情報処理機構（IPA）「ソフトウェア開発データ白書」より
 ※4 独立行政法人情報処理機構（IPA）「ソフトウェア開発分析データ集2020」より
 ※5 テスト・デバック事業をメインとする上場企業の売上合計より

周辺市場のテスト工程における比較表

 当社の事業領域

		潜在市場規模	市場ステージ	参入障壁
テスト工程市場	エンタープライズ系	巨大	黎明期	高い
	組込み系	大	黎明期	高い
	Web・スマホ系	中	成長期	中
	エンターテインメント系	小	成熟期	低い

重点領域であるエンタープライズ領域が堅調に成長

市場環境

デジタルトランスフォーメーション（DX）進展



- ①長期使用による基幹システムの老朽化
- ②大容量高速通信時代の到来

マイグレーションの負担増→コスト懸念・品質懸念

ソフトウェアテスト依頼の増加へ

特徴

- 単価 **高** 案件規模 **大** 契約期間 **長**
- テスト以外の知識(開発、業務知識)を求められる
→難易度 **高**

エンタープライズ専門部署を
2020年4月から設立、組織拡大中



当社の優位性

- 経験豊富な**ハイレイヤー**の採用
- 本領域に強い人材を供給可能な
外部協力会社との取引拡大
- 長年蓄積された質、量ともに豊富な
当社のテストノウハウ
- テストノウハウをプログラム化した
体系的・実践的な研修を**全員が受講**
- 上流工程**からの品質支援ニーズに対応

<市場環境>

最大で**約79万人**のIT人材不足

IT需要が今後拡大する一方で、我が国の労働人口（特に若年人口）は減少が見込まれ、IT人材の需要と供給の差（需給ギャップ）は、2030年には、最大で**約79万人**に拡大する可能性



各企業ますますテストの
アウトソース化の流れへ

新卒
未経験者



キャリア



オンライン
教育体制



充実した社内研修システムによる**早期の安定稼働に**
オンライン研修で**採用数増、高スキル人材の輩出を実現**

320時間

160時間

未経験者でも短期間で
高スキルエンジニアへ
育成出来ることが当社の強み

正社員エンジニア採用数

80名
(19/3期)
上場前

⇒

134名
(20/3期)
上場後

⇒

136名
(21/3期)

⇒

91名
(22/3期2Q時点)

“だれでも” “カンタン” に “日本語” でソフトウェアテストを自動化できるツール

『T-DASH』 OPENβ版を 11/1に公開



T-DASHの特長

- ①日本語のテストケースで自動化の実行が可能
プログラミングも必要なし
- ②テスト回数に制限なし
- ③見やすく操作しやすいダッシュボード

期待効果

当社手動テストと比較して

最大 **50%** の工数削減効果

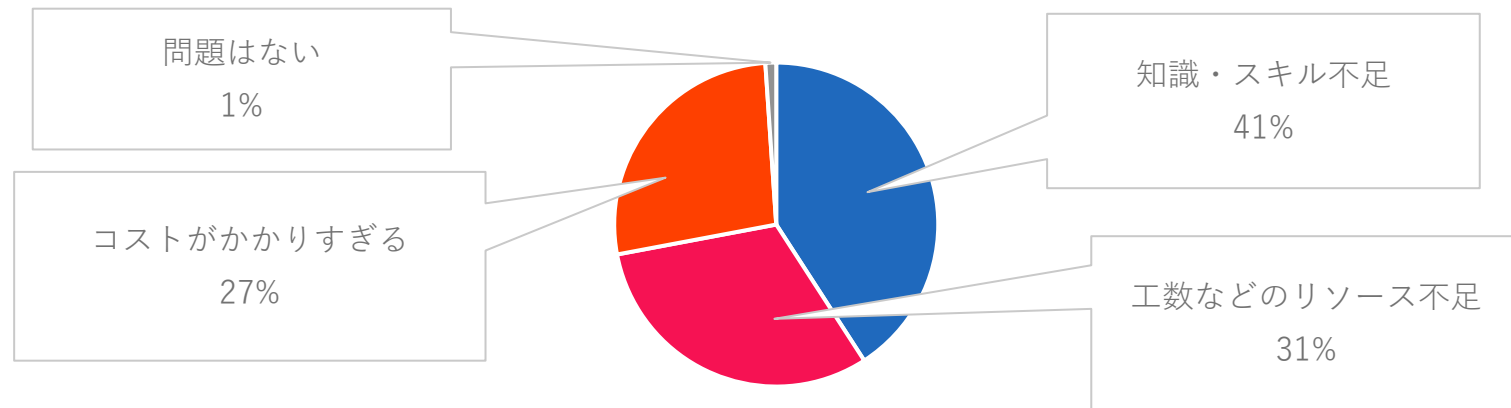
当社の狙い

- ・利益率向上
- ・有償化
- ・人材不足解消
- ・事業会社QAの知見の向上
- ・社員のエンゲージメント向上
(よりクリエイティビティな業務へ移行)

➡ テストを
当たり前に行う
世の中の実現へ

テスト自動化について、今どんな課題を抱えていますか？

(弊社セミナーのアンケート結果より)



ほぼ全てのテスト自動化に何らかの課題が！

テストケース

実施手順	ユーザーは「ログイン」画面の「メールアドレス」に「valtes@example.com」を入力する
	ユーザーは「ログイン」画面の「パスワード」に「password1234」を入力する
	ユーザーは「ログイン」画面の「ログインボタン」をクリックする
期待結果	システムは「ログイン」画面の「エラーメッセージ」に「Qbook ID (メールアドレス) とパスワードの組み合わせが正しくありません。」を表示する
	システムは「ログイン」画面の「メールアドレス」に「valtes@example.com」を表示する

- ✓ 作成内容は同じ
- ✓ 言語が違うだけ
- ✓ 足りないものは追加

同じことを2回
重複コスト

テストスクリプト

実施手順	<code>driver.get("https://www.qbook.jp/login");</code>
	<code>driver.findElement(By.id("email")).sendKeys("valtes@example.com");</code>
	<code>driver.findElement(By.id("p")).sendKeys("password1234");</code>
	<code>driver.findElement(By.id("submit")).click();</code>
期待結果	<code>assertThat(driver.findElement(By.id("error-message")).getText(), is("Qbook ID (メールアドレス) とパスワードの組み合わせが正しくありません。"));</code>
	<code>assertThat(driver.findElement(By.id("email")).getValue(), is("valtes@example.com"));</code>

テストケース

実施手順	ユーザーは「ログイン」画面の「メールアドレス」に「valtes@example.com」を入力する ユーザーは「ログイン」画面の「パスワード」に「password1234」を入力する ユーザーは「ログイン」画面の「ログインボタン」をクリックする
期待結果	システムは「ログイン」画面の「エラーメッセージ」に「Qbook ID（メールアドレス）とパスワードの組み合わせが正しくありません。」を表示する システムは「ログイン」画面の「メールアドレス」に「valtes@example.com」を表示する

仕様変更

両方の更新が必要

テストスクリプト

実施手順	<pre>driver.get("https://www.qbook.jp/login"); driver.findElement(By.id("email")).sendKeys("valtes@example.com"); driver.findElement(By.id("p")).sendKeys("password1234"); driver.findElement(By.id("submit")).click();</pre>
期待結果	<pre>assertThat(driver.findElement(By.id("error-message")).getText(), is("Qbook ID（メールアドレス）とパスワードの組み合わせが正しくありません。")); assertThat(driver.findElement(By.id("email")).getValue(), is("vales@example.com"));</pre>

テストケース

実施手順	ユーザーは「ログイン」画面の「メールアドレス」に「valtes@example.com」を入力する
	ユーザーは「ログイン」画面の「パスワード」に「password1234」を入力する
	ユーザーは「ログイン」画面の「ログインボタン」をクリックする
期待結果	システムは「ログイン」画面の「エラーメッセージ」に「Qbook ID（メールアドレス）とパスワードの組み合わせが正しくありません。」を表示する
	システムは「ログイン」画面の「メールアドレス」に「valtes@example.com」を表示する



テストスクリプト

実施手順	<pre>driver.get("https://www.qbook.jp/login"); driver.findElement(By.id("email")).sendKeys("valtes@example.com"); driver.findElement(By.id("password")).sendKeys("password1234"); driver.findElement(By.id("submit")).click();</pre>
期待結果	<pre>assertThat(driver.findElement(By.id("error-message")).getText(), is("Qbook ID（メールアドレス）とパスワードの組み合わせが正しくありません。")); assertThat(driver.findElement(By.id("email")).getValue(), is("vales@example.com"));</pre>

**T-DASHがスクリプトを自動生成
メンテナンス不要**

テストケース

実施手順	ユーザーは「ログイン」画面の「メールアドレス」に「valtes@example.com」を入力する ユーザーは「ログイン」画面の「パスワード」に「password1234」を入力する ユーザーは「ログイン」画面の「ログイン」ボタンをクリックする
期待結果	システムは「ログイン」画面の「エラーメッセージ」に「Qbook ID（メールアドレス）とパスワードの組み合わせが正しくありません。」を表示する システムは「ログイン」画面の「メールアドレス」に「valtes@example.com」を表示する

仕様変更時も
テストケースのメンテナンスでOK

仕様変更



テストスクリプト

```
実施手順 driver.get("https://www.qbook.jp/login");
driver.findElement(By.id("email")).sendKeys("valtes@example.com");
driver.findElement(By.id("password")).sendKeys("password1234");
driver.findElement(By.id("submit")).click();
期待結果 assertThat(driver.findElement(By.id("error-message")).getText(), is("Qbook ID（メールアドレス）とパスワードの組み合わせが正しくありません。"));
assertThat(driver.findElement(By.id("email")).getValue(), is("valtes@example.com"));
```

T-DASHがスクリプトを自動生成
メンテナンス不要

見やすいダッシュボード



テスト回数無制限



プロジェクト別で管理



Path(画面)要素自動取得



OS対応

Windows
MAC(22年初旬対応予定)

モバイル対応 (22年春頃予定)



ソフトウェアテストのコンサルタントとして活躍する湯本剛氏と アドバイザー契約を締結



×



湯本氏からのコメント

今回、T-DASHのアドバイザー契約を結ばせていただきました。
機会があってT-DASHの開発チームの方と話をするタイミングあり、
少し使わせてもらうことになりました。

実際に触ってみると、ツールに込められたバルテスさんの本気を感じ、
しっかり向かい合うためにもアドバイザーという立場でツール開発に
携わらせていただくことになりました。

今後、日本のテスト業界にとって、このT-DASHが必ず役立つツールに
なるようにアドバイスをしていくので、ご期待ください。

湯本剛氏プロフィール

工作機器メーカーにて生産管理システムの構築メンバーを経て、テストリーダーとして数多くのアプリケーションの開発に携わる。その後ソフトウェアテストのコンサルタントとしてテストプロセスの改善、テストツールの導入支援、テストの教育などを行い、現在は大手事業会社にてQAエンジニアとして従事。また、個人事業を行う株式会社ytte Labを創業。NPO法人ASTER理事、ISO/IEC JTC1/SC7 WG26 幹事（ISO/IEC/IEEE29119 テストプロセス標準の策定）。
テスト分析手法「ゆもつよメソッド」でも有名。博士（工学）。

自己株式の取得

取得対象株式の種類	当社普通株式
取得し得る株式の総数	160,000株（上限） （発行済株式総数（自己株式を除く）に対する割合2.3%）
株式の取得価額の総額	200,000,000円（上限）
取得期間	2021年11月15日～2022年2月28日
取得方法	市場買い付け

当社は、成長のための事業投資に取り組むとともに、株主還元施策についても積極的に取り組んでまいります。

SDGsの目標達成に向けた貢献が期待できると判断され、SDGs推進融資が実施されました

①ソフトウェアテストサービスを通じたシステム開発の効率化、品質向上への貢献

8

働きがいも
経済成長も



8.2 高付加価値セクターや労働集約型セクターに重点を置くことなどにより、多様化、技術向上及びイノベーションを通じた高いレベルの経済生産性を達成する。

9

産業と技術革新の
基盤をつくろう



9.2 包摂的かつ持続可能な産業化を促進し、2030年までに各国の状況に応じて雇用及びGDPに占める産業セクターの割合を大幅に増加させる。後発開発途上国については同割合を倍増させる。

②情報提供プラットフォーム(Qbook)の運営やセミナー開催による IT 人材育成への貢献

4

質の高い教育を
みんなに



4.4 2030年までに、技術的・職業的スキルなど、雇用、働きがいのある人間らしい仕事及び起業に必要な技能を備えた若者と成人の割合を大幅に増加させる。

8

働きがいも
経済成長も



8.5 2030年までに、若者や障害者を含む全ての男性及び女性の、完全かつ生産的な雇用及び働きがいのある人間らしい仕事、並びに同一労働同一賃金を達成する。

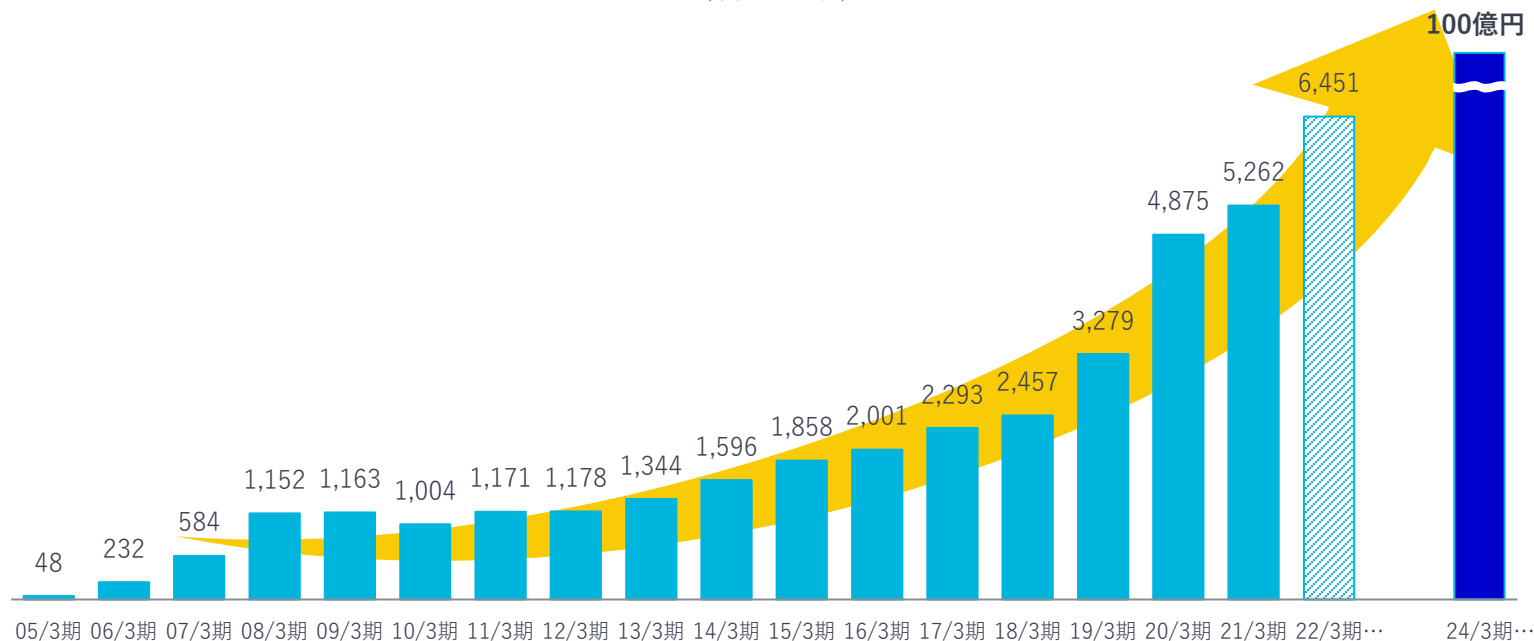


詳しくは10/29の
弊社プレスリリースをご覧ください。

ソフトウェアテスト市場の成長から、2024/3期に売上高**100億円**を目指す

売上高の推移

(単位：百万円)



ご留意事項

本資料には、当社グループの現在の計画や業績見通しなどが含まれております。
これらの将来の計画や予想数値などは、現在入手可能な情報をもとに
当社が計画・予想したものであります。

実際の業績などは、今後の様々な条件・要素により、この計画・予想などとは異なる場合があり、
この資料はその実現を確約したり、保証するものではありません。
なお、この資料への公認会計士、監査法人の関与はございません。



